

令和元年(2019年)10月9日(水曜日)

# 英国の社会貢献「持続的」

## GW三島が現地視察

三島市のNPO法人グラウンドワーク(GW)三島はこのほど、英国のバーミンガムやロンドンなどを訪れ、同国の町づくりを担う「社会的企業」を視察した。行政の支援を受けながら公益性と企業利益の双方を追求し、社会貢献と持続的な経営を可能にする新たな組織体のあり方について学んだ。

バーミンガムの元工業団地では40畝の公有地や荒廃した建物が安価で貸し出され、230社の社会的企業がカフェやパブ、ダンスホールなどを運営してコミュニティを形成している。同国では公益性の高い社会的企業は課税されず、事業内容によっては資金調達に必要な担保や利子も行政

が負担する。英国GW連合体など地元NPOが各社の経営指導を担うなど、行政と企業、市民がそれぞれ役割を分担しながら町づくりを進めている。英国ではうつやアルコール中毒など精神疾患を抱える国民が増加し、社会的企業が各事業で得た利益を元に職業訓練も実

## 公益と企業利益 両立学ぶ



社会的企業が運営する廃屋工場を使用した精神障害者雇用施設＝英国・バーミンガム

施して社会復帰を支援する。過疎化が進む地方都市も利便性が高まることで人口が増え始め、さらなるビジネスへと好循環が生まれているという。基金を形成することで失

敗した企業を互いにカバーし合う仕組みも整う。現地を訪れたGW三島の渡辺豊博専務理事(69)は、「(日本で一般的な)無償を前提としたボランティアやNPO法人は限界がある。社会性とビジネスを両立した企業を行政や地域が支援する仕組みが必要」と訴える。(三島支局・金野真仁)